

別添2

厚生科学研究研究費補助金

医療技術評価総合研究事業

看護基礎教育における認知領域面の教育基準作成に関する研究

平成13年度 総括研究報告書

主任研究員 高橋照子

平成14（2002）年3月

別添3

研究報告書目次

I. 総括研究報告

看護基礎教育における認知領域面の教育基準作成に関する研究…………… 1

高橋照子

(資料) 各看護学における教育単位および教育内容

厚生科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）

総括研究報告書

看護基礎教育における認知領域面の教育基準作成に関する研究

主任研究者 高橋 照子 愛知医科大学 看護学部長

研究要旨 本研究は、今日の医療・看護の実態、および社会の変化や多様化する人々のニーズに応える看護実践能力の育成を目指して、看護基礎教育における認知領域面(理論的側面の目標分類学に基づく知識、理解・解釈力、問題解決力を含む内容)の教育基準を明らかにすることを目的としている。本年度は、医療現場で必要とされている看護実践能力を明らかにするために、看護技術に焦点を当て、公的基金による研究報告書、および全国の継続教育に関して定評のある病院における看護技術の教育内容を分析して、体系的に統合し今日必要とされている技術内容を精選した。それらに基づいて、各看護学領域(基礎、成人、母性、小児、精神、地域・在宅、老人看護学)別に、必要な知識と知識を活用するための諸能力等の認知領域に関する内容を理論的に構築するために、教育単位、教育内容を明らかにした。

分担研究者 田島桂子
広島県立保健福祉大学
副学長・教授
藤村龍子
東海大学健康科学部
学部長・教授
田村正枝
長野県立大学看護学部
教授
村田恵子
神戸大学医学部保健学科
教授
太田喜久子
慶應義塾大学看護医療学部
教授
安酸史子
岡山大学医学部保健学科
教授
井上智子
東京医科歯科大学大学院
教授

筒井真優美
日本赤十字大学看護学部
教授
小田正枝
西南女学院大学保健福祉学部
教授
加藤千代世
社会保険看護研修センター
教員

A. 研究目的

今日の医療の進歩は専門分化と高度・複雑化をもたらし、最新機器やコンピューターによる検査技術、移植医療や遺伝子治療など新たな検査や治療が台頭している。一方で在宅や地域医療では、チーム医療を前提とした保健・医療・福祉の諸専門職者との協働や、家族員も加えた生活に密着した

システム化が求められている。こうした医療環境や社会状況の変化に対応した適切な看護を提供するために、専門職者としての看護実践能力の質的保証は社会的責務といわなければならない。そこで、本研究では看護基礎教育における看護実践能力の育成を目指して、その根拠となる認知領域面の教育内容の基準を作成することが目的である。本年度は看護実践能力の中心である看護技術に焦点を当て、現在必要とされている看護技術を明らかにし、それとの関連から各看護学の教育単位および教育内容を明らかにすることを目的としている。

A. 研究方法

現在の医療・看護の現場で必要とされている看護技術の実態を把握するために、以下の方法で看護技術内容を検討した。①平成7年度以降の公的基金(厚生科学研究費、科学研究費、社会福祉・医療事業団助成等)による8つの研究報告書に基づいて、技術項目を抽出した。②わが国で看護職者の継続教育に関して定評のある病院、および全国にわたる研究協力者が推薦する病院をあわせて9施設の院内プログラムから、現場で必要とされている看護技術項目を抽出した。

これらに基づいて、看護職者に求められる技術を精選するために、研究分担者が中心となって、人間の成長・発達段階、看護に実践の場、看護実践過程、保健師・助産師・看護師に不可欠な内容等に視点から、看護技術項目を統合した。

精選した看護技術項目に基づいて、各看護学領域(基礎、成人、母性、小児、精神、地域・在宅、老人看護学)別に、看護技術を

支える認知領域の内容を含めた教育単位の構築、および教育内容・方法の検討を進めている。

(倫理面への配慮)

9施設から教育プログラムの提供を得る際は、文書あるいは口頭にて研究目的を明確に提示し、匿名性とデータの秘匿性を保証した。また、調査においては、研究の趣旨ならびに調査参加者の匿名性と、データの統計処理による個別データの秘匿を明記した依頼文を送付し、自由参加による郵送法とした。

B. 研究結果および考察

看護技術内容は、①生活過程に関する援助技術②生活と治療・看護の過程に必要な技術、③治療過程に関する援助技術、④看護の実践過程に必要な技術、⑤看護システムに関する技術、⑥健康生活維持に関する課題への対応技術の、6つの枠組みに分類され、それぞれ大項目から、具体的な技術項目を中項目として提示した。

これらの看護技術は、認知領域面の基盤が明瞭であるとき看護実践能力の育成が可能であることから、看護技術を中心にした各看護学の認知領域面に関して教育単位構成が検討され、教育単位・教育内容について次のような結果を得ている(資料参照)。

基礎看護学では、人間の基本的ニーズを充足するための看護技術や看護の実践展開過程の基盤となる技術等を含めて11単位構成を提唱している。成人看護学では、基礎看護学で習得した看護技術を土台として、生活機能障害の視点から、健康期・急性期・慢性期・終末期、および看護基礎能力とす

る教育単位にまとめている。母性看護学では、主たる対象者が健康人であることから、対象の持つ発達課題の達成や健康の維持・増進を支援するために必要な技術習得を主眼として5つの教育単位をあげている。小児看護学においては、小児の成長・発達を基盤とした単位構成を試みている。精神看護学では、基本から実践過程、活動の広がりという視点から単位構成をしている。在宅・地域看護学においても、基本概念および展開技術・実践技術として、地域看護・在宅看護別に教育単位をあげその内容を提示している。老人看護学では、高齢者の状況や問題への対応・援助技術と高齢者に関わる看護職が身につけている技術・能力とする2大教育単位として、それぞれサブ単位を設けている。

これらの教育単位・内容は、さらに理論的検討を重ね、教育方法・評価を加えて各看護学の認知領域面の教育内容を構造化し教育基準を作成していく。

D. 結論

初年度の研究結果から、看護実践の現場において必要とされる看護技術が明らかになった。それらを中心にして看護基礎教育における認知領域面の教育単位・内容を各看護学別に検討し提示した。

これらに基づいて、教育の実際およびその可能性を把握するために調査を実施する。また、認知領域面の教育内容を構造的に明らかにし、基礎教育と継続教育との関係を考慮しつつ、基礎教育における看護実践能力育成のための認知領域面における教育内容の基準を作成することが今後の課題である。

看護技術および認知領域面の教育に関する基準作成の中間報告

担当領域：基礎看護学

No. 1

<p>教育単位構成の主旨</p>	<p>看護学は、専門的な知識・技術・態度により統合された「看護技術」を用いて、人間の未充足のニーズを満たすために意図的に援助を行う実践科学である。従って、看護者による様々な看護実践そのものが「看護技術」の表現形とも解釈できる。そこで、看護実践に着目し、その基盤となる看護技術の全体像を整理することにより、基礎看護学領域に関する内容を選択した。更に、看護実践を行うための関連技術の分類を通して教育内容を精選し、帰納的に学修のまとまりを作り、11単位の「教育単位」を構成した。構築の主要な視点は以下の6点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命維持に必要な不可欠な人間の基本的ニーズを充足できる（生理的、心理・社会的基本ニーズ）。 2) 健康障害・災害・事故によって変化する身体的、心理・社会的課題や危機に対応できる。 3) 1)と2)に対して看護の独自性を発揮した援助ができる（関係形成、安楽・安寧、適応と自立）。 4) 対象を全体的に把握し健康問題を査定できる。 5) 看護の実践展開過程の基盤となる技術（看護過程、クリティカルシンキング）を用いた看護実践ができる。 6) 現代の医療・看護状況と密接に関わりながら変化を捉え、質の高い対応ができる（看護倫理、看護システム、診断・治療過程に関する援助）。 <p>また、教育単位の数字は学修進度や教育単位間の関連性を考慮しており、学修内容が深化・向上・発展できるように配列した。教育内容に付記した【認知】の表示は、認知領域の占める割合が高い内容か、あるいは、演習・実習で実施困難なために認知レベルの修得に留まる教育内容である。なお、本基準では基礎看護学の範囲に、いわゆる看護管理・看護教育・看護倫理の教育内容を含めて構築した。</p>
<p>教育単位</p>	<p>教育内容 (全項目、語尾の「～の援助技術」を省略してある。介助の表現は適切な項目のみに付記した。)</p>
<p>1. 生理的基本ニーズに関する看護技術</p> <p>1. 身体の清潔・整容・更衣に関する看護技術</p> <p>2. 排泄に関する看護技術</p> <p>3. 食事・栄養に関する看護技術</p> <p>4. 起居・体位変換・移乗・移動に関する看護技術</p>	<p>1) 健康の維持・増進</p> <p>2) 身だしなみ</p> <p>3) 口腔の清潔</p> <p>4) 全身清拭（目・耳・鼻・爪を含む）</p> <p>5) 洗髪</p> <p>6) 入浴</p> <p>7) 陰部・肛門部洗浄</p> <p>8) 衣服の着脱</p> <p>1) 健康の維持・増進（水分・栄養・運動など）</p> <p>2) 床上での排便（便器・尿器使用）</p> <p>3) 床上での排尿（便器・尿器使用）</p> <p>4) ポータブルトイレ使用による排泄</p> <p>5) おむつ交換</p> <p>6) 排泄異常時への対応</p> <p>①腹部マッサージ</p> <p>②摘便</p> <p>③浣腸</p> <p>④導尿</p> <p>⑤留置カテーテル挿入中</p> <p>⑥尿失禁</p> <p>1) 健康の維持・増進</p> <p>2) 食事介助</p> <p>3) 経管栄養法</p> <p>1) 健康の維持増進</p> <p>2) 体位変換</p> <p>①ベッド上での体位変換</p> <p>②臥位から座位とその関連行動</p> <p>③ベッドからの離床とその関連行動</p> <p>3) 移乗・移動</p> <p>①車椅子とベッド間の移乗・移動</p> <p>②ストレッチャーとベッド間の移乗・移動</p> <p>③歩行介助（特定箇所とベッド間）</p>

教育単位	教育内容
5. ボディメカニクスに関する看護技術 6. 環境調整に関する看護技術 7. 睡眠・休息に関する看護技術	4) 体位の保持 ①良肢位の保持 ②安楽用品を用いた体位の保持 5) 運動・訓練促進 1) 基本姿勢の保持 ①立位 ②仰臥位 ③側臥位 ④長臥位 ⑤シムス位 ⑥腹臥位 ⑦座位 2) 看護実践のボディメカニクス原理の活用 ①適切な作業域の確保【認知】 ②適切な重心の移動【認知】 ③適切な基底面積の確保【認知】 ④テコの原理の活用【認知】 ⑤トルクの原理の活用【認知】 1) 病床の整備 ①ベッドメイキング ②シーツ交換 2) 病室の環境調整 3) 生活空間の整備 1) 睡眠の調整 2) 休息の調整
II. 関係形成に関する看護技術 1. 面接に関する看護技術 2. コミュニケーションに関する看護技術	1) 健康問題を持つ患者に必要な面接技法 ①ラポールの形成 ②援助問題の明確化 ③目標の設定 ④看護者と患者の役割関係の明確化 ⑤患者の支持 ⑥目標達成状況の評価 ⑦効果的な質問の技法 1) クライアント（患者）との対人関係 2) 家族・外来者との対人関係 3) 必要に応じた関係者間での協調 4) 文化・言語の違いを超えた対人関係【認知】 5) コミュニケーション困難な人々への対応 ①聴力障害者 ②言語障害者（失語症、構音障害） ③視覚障害者
III. 健康問題の査定に関する看護技術 1. ヘルスアセスメントに関する看護技術	1) 健康歴の聴取 ①聴取項目の選択 ②インタビューの環境設定 ③インタビューに適合したコミュニケーション技法 ④対象に応じた聴取方法 2) フィジカルアセスメント ①一般的な身体診査 ・視診 ・触診 ・打診 ・聴診 3) 発達アセスメント ①身体的発達のアセスメント ②認知的発達のアセスメント ③精神的発達のアセスメント ④社会的発達のアセスメント

教育単位	教育内容
	4) 全身状態の観察 ①全身の外観 ②精神状態の観察 ③行動の観察(歩行・姿勢・特別な癖) 5) 異常状態の観察【認知】 (身体的課題、心理・社会的課題に挙げている異常を参照のこと) 6) 身体各部の系統別診査 ①頭頸部の診査: 頭部、眼、耳、鼻、口腔・咽頭、頸部 ②胸部の診査: 肺・胸部、心臓・血管、乳房 ③腹部の診査: 腹部(胃・肝・脾・腸)、腎・泌尿器、生殖器、肛門 ④その他全身の診査: 皮膚(頭皮・指・爪を含む)、筋・骨関節、神経、精神状態 7) 身体の計測 ①身長計測 ②体重計測 ③座高計測 ④頭位計測 ⑤胸囲計測 ⑥腹囲計測 8) 生体情報の測定 ①体温測定 ②呼吸測定 ③呼吸音の聴取 ④心音の聴取 ⑤血圧測定 ⑥脈拍心拍数の同時測定 ⑦尿量・比重の測定
IV. 看護の実践展開過程の基盤となる看護技術 1. 看護過程展開技術	1) 基礎理論を踏まえた看護の展開【認知】 ①発達に関する理論【認知】 ②欲求に関する理論【認知】 ③人間関係に関する理論【認知】 ④情報に関する理論【認知】 ⑤知覚に関する理論【認知】 ⑥意思決定理論【認知】 ⑦問題解決理論【認知】 2) 看護過程の方法論を用いた看護の展開 ①情報収集 ②看護診断(情報の分類・解釈・分析・総合、問題の明確化) ③計画立案 ④計画にもとづく実践 ⑤評価(再アセスメント、修正を含む)
2. クリティカルシンキングに関する看護技術	1) クリティカルシンキングの5つの思考様式を踏まえた看護の展開【認知】 ①総体的想起【認知】 ②習慣【認知】 ③探究【認知】 ④新しい発想と創造性【認知】 ⑤自分の思考様式の認識【認知】 2) クリティカルシンキングの気質(態度)を備えた看護の展開【認知】 ①好奇心【認知】 ②客観性【認知】 ③偏見のない開かれた心【認知】 ④柔軟性【認知】 ⑤懐疑性【認知】 ⑥知的誠実性【認知】 ⑦他者の思考に対する尊重【認知】

教育単位	教育内容
3. 記録・報告に関する看護技術	⑧決断力【認知】 ⑨視点／観点【認知】 ⑩具体例【認知】 1) 看護に必要な記録 ①健康歴の記録(対象の背景・既往歴・現病歴) ②看護計画立案の記録 ③経過記録 ④体温表の記録 ⑤種々のフローシートの記録 ⑥中間サマリーの記録 ⑦退院時サマリーの記録 2) 電子カルテ使用による記録 3) 報告(口頭・電話・文書による継続・伝達・確認を含む) ①必要な看護に関わる報告 ②必要な治療に関わる報告 ③必要な検査に関わる報告 ④クライアント(患者)への必要な報告・説明
V. 心理・社会的基本ニーズに関する看護技術 1. 精神的・霊的側面への看護技術	1) 精神的欲求の未充足状況の観察とアセスメント 2) ケアリング ①分ち合い ②傾聴 ③慰め ④共在 ⑤共感 ⑥タッチング(身体に触れる、手を握る、撫でるなど) ⑦希望の付与 ⑧元気づけ ⑨気持ちの支持 ⑩カウンセリング ⑪教育・指導 3) 対象の文化・祭事を考慮した生活【認知】 4) 宗教を尊重した生活【認知】 ①祈りの環境調整【認知】 ②食習慣の尊重【認知】 ③その他の生活習慣の尊重【認知】
2. 学習に関する看護技術	1) 必要に応じた学修の継続【認知】 ①学習環境・施設・システムの情報提供【認知】 ②学習環境の調整(治療・検査・生活・学修を総合した生活環境の調整)【認知】
3. 人の死の過程に関わる看護技術	1) 死を迎える人への対応【認知】 ①人間の死の意味の理解【認知】 ②自己の死生観の形成(死への準備教育)【認知】 ③全人的苦痛(身体的・精神的・社会的・霊的)の緩和【認知】 2) 臨終を迎える人の家族への対応【認知】 ①家族の苦悩の理解【認知】 ②患者のケアへの家族参加【認知】 ③共に生活できる場・時間の提供【認知】 3) 死と死後の遺体への対応 ①死の徴候の観察 ②医師の死亡判定の確認 ③患者と家族のお別れの環境作り ④死後の処置

教育単位	教育内容
	2) 注射薬の管理と介助 ①皮内注射 ②皮下注射 ③筋肉注射 ④静脈内注射 ⑤点滴静脈内注射 ⑥高カロリー輸液時の管理と介助 ⑦硬膜外注入時の介助と管理 3) 自己注射と自己血糖測定の教育・指導 4) 麻薬の使用介助と管理 5) 薬物の適切な取り扱い ①保管場所・方法 ②温度管理
4. 輸血に関する看護技術	1) 輸血の介助と管理 ①輸血に必要な重要事項の確認 ②輸血開始時の観察（生物学的テスト） ③輸血中の観察（副作用） ④輸血の滴下速度の管理
5. 処置に関する看護技術	1) 呼吸障害のある患者への処置 ①気道確保 ②人工呼吸 ③体位排痰法 ④吸入療法・ネブライザー ⑤呼吸訓練 ⑥酸素吸入の種類と管理 ⑦気管内吸引 ⑧気管切開時の看護【認知】 ⑨気管カニューレの交換【認知】 ⑩レスピレーター装着時の援助と管理【認知】 ⑪エアバックによる加圧換気【認知】 2) 循環障害のある患者への処置 ①体外式心マッサージ ②温・冷罨法 3) 腎・泌尿器障害のある患者への処置 ①膀胱洗浄 4) 運動障害のある患者への処置 ①牽引 ②補装具 5) 消化器障害のある患者への処置 ①胃洗浄 ②腸洗浄 6) 皮膚・粘膜障害のある患者への処置 ①褥創の処置
VII. 身体的、心理・社会的課題への安全・安寧に関する看護技術 1. 身体的課題への対処に関する看護技術	1) 呼吸・循環の障害による症状への対処【認知】 ①呼吸困難【認知】 ②動悸【認知】 ③血圧異常【認知】 ④ショック【認知】 ⑤末梢循環不全【認知】 2) 栄養代謝の障害による症状への対処【認知】 ①嚥下困難【認知】 ②下痢【認知】 ③便秘【認知】 ④腹部膨満【認知】 ⑤嘔気・嘔吐【認知】

教育単位	教 育 内 容
<p>2. 心理・社会的課題への対応に関する看護技術</p> <p>VII. 環境適応と自立支援に関する看護技術</p> <p>1. 入院・退院に関する看護技術</p>	<p>3) 防衛機能の障害による症状への対処【認知】</p> <p>①易感染【認知】</p> <p>②発熱【認知】</p> <p>③痒み【認知】</p> <p>4) 内部環境調節機能障害による症状への対処【認知】</p> <p>①尿量・尿質の異常【認知】</p> <p>②浮腫（腹水）【認知】</p> <p>③脱水【認知】</p> <p>5) 感覚・認知機能の障害による症状への対処【認知】</p> <p>①疼痛【認知】</p> <p>②知覚障害【認知】</p> <p>③視力障害【認知】</p> <p>④聴力障害【認知】</p> <p>6) 運動機能障害による症状への対処【認知】</p> <p>①運動麻痺【認知】</p> <p>②拘縮【認知】</p> <p>7) 言語障害による症状への対処【認知】</p> <p>①構音障害【認知】</p> <p>②失語症【認知】</p> <p>8) 脳・神経系障害による症状への対処【認知】</p> <p>①意識障害【認知】</p> <p>②痙攣【認知】</p> <p>③排尿のメカニズムの障害【認知】</p> <p>④排便のメカニズムの障害【認知】</p> <p>1) 自己知覚の障害への対処【認知】</p> <p>①不安【認知】</p> <p>②ボディイメージの障害【認知】</p> <p>③生活環境の変化に伴う不適応【認知】</p> <p>1) 入院時の患者・家族への対応</p> <p>2) 入院時オリエンテーション【認知】</p> <p>3) 入院時の看護歴の聴取</p> <p>4) 社会復帰過程における身体・心理面の調整</p> <p>①散歩の計画・実施</p> <p>②外泊の計画・実施【認知】</p> <p>③退院後の生活環境に応じた生活のトレーニング</p> <p>5) 退院後の生活指導</p> <p>6) 在宅での看護・介護指導【認知】</p> <p>7) 社会復帰のために必要な連携【認知】</p> <p>①家族との連携</p> <p>②外来との連携【認知】</p> <p>③他施設や地域の看護職との連携(看護サマリー、電話連絡、病棟訪問など)【認知】</p> <p>④他施設や地域の関連職種との連携【認知】</p> <p>8) 社会資源の活用方法の指導【認知】</p> <p>①介護用品の紹介と使用法の指導【認知】</p> <p>②保健・福祉サービスの紹介・指導【認知】</p> <p>③利用可能な施設の紹介【認知】</p> <p>9) 患者会の紹介【認知】</p>

教育単位	教育内容
2. 教育・指導に関する看護技術	1) 指導内容に応じた教育技法【認知】 ①教材研究と教材開発【認知】 2) 対象に応じた教育技法【認知】 ①レディネス把握【認知】 ②看護援助のためのキー概念を適用する【認知】 ・動機づけ【認知】 ・エンパワーメント【認知】 ・アンドラゴジー【認知】 ・自己効力【認知】 ③ニーズアセスメント【認知】 ④対象別指導；発達段階、障害の程度、理解力に応じた指導【認知】 ⑤状況に応じた指導【認知】 ・生きがい連結法【認知】 ・リフレミーング【認知】 ・ステップ・バイ・ステップ【認知】 ・行動強化法【認知】 ・セルフモニタリング【認知】 ・ピアラーニング【認知】 3) 教材（既存教材を含む）作成・活用【認知】 ①リーフレット ②パンフレット ③紙芝居 ④ポスター ⑤ビデオ ⑥写真 その他 4) 教育指導過程の展開 ①目的【認知】 ②計画；指導案作成【認知】 ③教育指導の実践【認知】
3. 家族の役割・機能の変化への対処に関する看護技術	1) 生活環境の変化への対処【認知】 2) 役割の変化への対処【認知】 ①役割認識の変化【認知】 ②家族の発達【認知】 ③役割遂行のための身体能力の変化【認知】 ④社会参加への変化【認知】 3) 家族機能の変化への対処【認知】 ①親の役割遂行の変化【認知】 ②親子間愛着変化【認知】 ③夫婦間関係の変化【認知】 ④兄弟・姉妹関係の変化【認知】
IX. 危機的状況への対処に関する看護技術 1. 身体的危機への対処に関する看護技術 2. 心理・社会的危機への対処に関する看護技術	1) 身体的危機への対処【認知】 ①大出血【認知】 ②急性腹症【認知】 ③致死的不整脈【認知】 ④昏睡（糖尿病性、肝性、脳性など）【認知】 ⑤重症熱傷【認知】 2) 心理・社会的危機への対処【認知】 ①予期的悲嘆【認知】 ②恐怖【認知】 ③強度の不安【認知】 ④絶望【認知】 ⑤役割遂行の変調【認知】 ⑥社会的相互作用の傷害【認知】 2) 病名の告知の過程への対処 ①告知に関する基準を理解した対処【認知】 ②告知の過程におけるクライアントの問題把握【認知】 ③クライアントの問題への対処【認知】 ④告知後の反応に基づく評価への対処【認知】

教育単位	教育内容
<p>3. 予防・危険からの防護に関する看護技術</p>	<p>3) 死・別離への対処【認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①家族の予期的悲嘆【認知】 ②死・別離に伴う危機のプロセス【認知】 ③子どもと死・別離した親の危機のプロセス【認知】 ④突然死された遺族の危機のプロセス【認知】 <p>1) 感染予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ①手洗 ②ガウンテクニック（マスク、ガウン、手袋、履物） ③滅菌物の取り扱い ④隔離（汚染区域の設定を含む） ⑤交叉感染の予防 ⑥医療廃棄物の処理 ⑦汚物の取り扱い ⑧消毒法 ⑨滅菌法 ⑩空調設備の管理 <p>2) 看護者の健康管理（看護者自身の感染の有無、免疫の有無）</p> <p>3) 患者の体内に挿入されているルートの管理（入口部、ルート内の液体、三方活栓）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人体入口部と周辺の清潔の保持 ②留置中のルートにプールする液体の管理 ③三方活栓などの側注ルートの管理 <p>4) 患者の体内に注入する際の安全性の管理（消毒の仕方、注入物の安全性）【認知】</p> <p>5) 安全の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> ①転倒・転落の防止 ②体位の固定 ③医療器具の安全性の定期点検【認知】 ④クライアント（患者）の確認行為 ⑤クライアント（患者）の暴行への対処【認知】 ⑥微生物汚染への対処【認知】
<p>4. 事故・災害への対処に関する看護技術</p>	<p>1) 災害緊急時への対処</p> <p>2) 災害の後遺症への対処【認知】</p>
<p>X. 看護倫理に関する看護技術</p> <p>1. 権利擁護に関する看護技術</p>	<p>1) 看護倫理に関する規律の遵守【認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①看護倫理の国際規律【認知】 ②看護婦の規律—看護に適用される倫理概念【認知】 <p>2) 倫理の原則に基づいた看護【認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自律の原則【認知】 ②無害の原則【認知】 ③善行の原則【認知】 ④正義（平等）の原則【認知】 ⑤真実の原則【認知】 ⑥忠誠の原則【認知】 ⑦死に至たらせることを回避する原則【認知】 <p>3) 倫理的価値判断の基準に基づいた看護【認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①価値判断【認知】 ②権利判断【認知】 ③義務判断【認知】 ④責任判断【認知】 <p>4) 患者の権利に関する宣言を理解した看護【認知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①良質の医療を受ける権利【認知】 ②選択の自由の権利【認知】 ③自己決定の権利【認知】 ④意識喪失患者【認知】 ⑤法的無能力者【認知】

教育単位	教育内容
XI. 看護システムに関する看護技術 1. 看護管理に関する看護技術	<ul style="list-style-type: none"> ⑥患者の意思に反する処置・治療【認知】 ⑦情報に関する権利【認知】 ⑧秘密保持に関する権利【認知】 ⑨健康教育を受ける権利【認知】 ⑩尊厳性への権利【認知】 ⑪宗教的支援を受ける権利【認知】 5) 自己決定のプロセス【認知】 <ul style="list-style-type: none"> ①インフォームド・コンセント【認知】 ②インフォームド・チョイス【認知】 ③セカンド・オピニオン【認知】 6) プライバシーの保護 7) 情報開示請求への対処【認知】 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護管理の原則に基づいた看護管理【認知】 <ul style="list-style-type: none"> ①看護管理の目的【認知】 ②看護管理の機能【認知】 ③看護管理の対象【認知】 ④看護管理の評価【認知】 2) 物品管理 <ul style="list-style-type: none"> ①滅菌物品の管理 ②常備薬品の管理（救急カートの整理） ③医療機器の管理 ④看護用品・リネン類の管理 3) 施設の看護方式に基づいた看護の展開 <ul style="list-style-type: none"> ①機能別看護 ②受け持ち制 ③チームナーシング ④プライマリナーシング ⑤モジュール 4) 看護活動の場を理解した看護管理【認知】 <ul style="list-style-type: none"> ①医療施設【認知】 ②保健施設【認知】 ③福祉施設【認知】 ④その他【認知】 5) 看護業務と労働を理解し看護管理を行う【認知】 <ul style="list-style-type: none"> ①看護師業務【認知】 ②保健師業務【認知】 ③助産師業務【認知】 ④看護目標の設定による実践【認知】 ⑤職員配置【認知】 ⑥看護ケアの管理【認知】 ⑦安全管理【認知】 ⑧職員管理【認知】 ⑨労働基準法【認知】 ⑩ILO【認知】 6) 看護職の責務に基づいた看護管理【認知】 7) 看護制度・看護行政を理解した看護管理【認知】 <ul style="list-style-type: none"> ①保助看法【認知】 ②医療法【認知】 8) 現状のアセスメントに基づく変革 9) 社会とのコラボレーションの保持 <ul style="list-style-type: none"> ①保健・医療・福祉領域の動向とシステム【認知】 ②保健・医療・福祉領域の連携と調整 ③社会資源の活用 10) 安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ①危機管理とリスクマネジメント ②緊急災害体制

教育単位	教育内容
	11) 看護の質向上と質評価 (QA) ① 質評価のプログラムの立案【認知】 ② オーディット・評価システム【認知】 ③ 直接観察・巡視・看護ラウンド ④ 事例検討
2. チーム医療への参画に関する看護技術	1) チーム医療の中での看護職の活動 ① 看護職員と他職種 ② チーム医療 ③ 保健医療・福祉チーム ④ 看護活動の場 (医療施設、保健施設、福祉施設)【認知】 ⑤ マネージメントと連携【認知】 2) チーム医療における個人の役割 ① リーダーシップ ② メンバーシップ ③ 他職種への情報提供と情報収集【認知】 ④ 相互カンファレンス【認知】
3. 保健・医療・福祉の連携システムづくりに関する看護技術	1) 関係機関との連携の中での看護職の活動【認知】 2) 専門職者間での連携システムの組織化と活動【認知】 3) 非専門職者との連携システムの組織化と活動【認知】
4. 情報通信技術への参画に関する看護技術	1) 利用電子機器への対応 2) 開発された関係情報の活用 3) 情報の安全管理 ① パスワードの管理 ② 倫理的配慮
5. 看護教育に関する看護技術	1) 看護教育の教育課程【認知】 2) 看護教育の教育方法【認知】 3) 看護教育の教育評価【認知】 4) 看護教育の教育制度【認知】 ① 看護基礎教育【認知】 ② 修士・博士課程教育【認知】 ③ 継続教育【認知】

急性期	2. 呼吸循環機能障害	<ul style="list-style-type: none"> ・意識レベル ・脳神経アセスメント ・運動機能アセスメント ⑦与薬管理 ・中心静脈 ・輸液 ・輸血 1) 酸素化促進ケア ・気道確保 ・吸入療法、ネブライザー ・酸素療法 ・気管内吸引 ・排痰法 ・人工呼吸器装着患者ケア ・胸腔ドレーン挿入患者のケア 2) 循環促進ケア ・体液の補正 ・ショックの予防 ・不整脈への対処 	<p>実習 実習 実習</p> <p>実習 実習 実習</p> <p>技術演習 実習 実習 演習 実習 演習 演習</p>
	3. 防衛機能の障害	<ul style="list-style-type: none"> 1) 皮膚・粘膜ケア 2) 易感染状態への対処 3) 褥創ケア 4) 化学療法中の対処 5) 放射線療法中の対処 	<p>実習 実習 実習 講義 講義</p>
	4. 消化排泄機能障害	<ul style="list-style-type: none"> 1) TPNの管理 2) 腹部膨満のケア 3) ストマのケア 4) 化学療法中の嘔気嘔吐ケア 5) 化学療法中の食欲不振ケア 6) 放治中の食欲不振へのケア 7) 下痢・便秘へのケア 	<p>講義 実習 演習 講義 講義 講義 講義 実習 講義 講義 講義</p>
	5. 感覚知覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・意識障害への対処 ・頭蓋内圧亢進への対処 ・せん妄への対処 	<p>実習 講義 講義 講義</p>
	6. 全人的な苦痛	<ul style="list-style-type: none"> 1) 疼痛緩和ケア 2) 安全の保証 3) 喪失体験へのケア <ul style="list-style-type: none"> ・身体の一部喪失 ・病名告知 4) 適切な抑制 5) 睡眠のための環境調整 	<p>実習 講義 講義 実習 実習 実習</p>
	7. 家族の危機	<ul style="list-style-type: none"> 1) 危機的状況への対処 	<p>実習</p>
	1. 身体機能障害	<ul style="list-style-type: none"> 1) 排泄の調整 <ul style="list-style-type: none"> ・人工肛門リハ ・人工膀胱リハ 	<p>実習 技術演習 講義</p>

回復期	<p>2. 自己概念の障害</p> <p>3. 社会的交流の現象</p>	<p>2) 食事摂取の再獲得</p> <p>①胃切除術後の食事始動</p> <p>②燕下障害者の食事訓練</p> <p>3) 運動機能の再獲得</p> <p>①歩行訓練</p> <p>②補装具装着技術</p> <p>1) ボディイメージの修正援助</p> <p>2) コーピング強化の援助</p> <p>3) 自尊感情の強化援助</p> <p>1) ソーシャルサポートの強化</p> <p>2) 社会資源の活用指導</p> <p>3) 役割強化</p>	<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>実習</p> <p>講義</p> <p>実習</p> <p>実習</p>
慢性期	<p>1. 内分泌代謝障害</p> <p>2. 慢性呼吸循環障害</p> <p>3. 慢性排泄機能障害</p> <p>4. 社会生活への不応</p> <p>5. 不確かな病状予測への不応</p>	<p>1) DM患者への教育</p> <p>①インシュリン自己注射指導</p> <p>②食事療法指導</p> <p>③運動療法指導</p> <p>④内服指導</p> <p>⑤自己モニタリング指導</p> <p>1) 心不全患者への教育</p> <p>①食事、運動、内服指導</p> <p>②自己モニタリング指導</p> <p>2) 呼吸不全患者の教育</p> <p>①呼吸訓練指導</p> <p>②酸素節約生活指導</p> <p>③栄養指導</p> <p>1) 透析患者への教育</p> <p>①食事、運動、内服指導</p> <p>②自己モニタリング指導</p> <p>1) 生活再構築の援助</p> <p>①生活環境変化への対処</p> <p>②役割変化への対処</p> <p>③家族機能変化への対処</p> <p>2) 社会資源の活用</p> <p>1) 不安のコントロール</p> <p>2) コーピング強化</p>	<p>演習</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>講義</p>
終末期	<p>1. 痛み</p> <p>2. 喪失への苦悩</p>	<p>1) 苦痛緩和ケア</p> <p>①ペインコントロール</p> <p>②症状コントロール</p> <p>1) 悲嘆への援助</p> <p>2) 精神症状・状態への対処</p> <p>①抑うつ</p> <p>3) 死にゆく人への援助</p> <p>4) 臨終時の家族への援助</p> <p>5) 死後のケア</p>	<p>演習</p> <p>演習</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>演習</p> <p>講義</p> <p>講義</p>
	<p>1. 看護過程</p> <p>2. 患者看護師関係</p> <p>3. リスクマネジメント</p>	<p>1) 健康障害に応じた看護診断</p> <p>2) 自立した看護実践の展開</p> <p>3) 看護実践の評価</p> <p>4) 他職種と連携したケアの実施</p> <p>1) クライアントとの対人関係</p> <p>2) 家族・外来者との対人関係</p> <p>1) 安全管理・感染予防</p>	<p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p> <p>実習</p>

<p>看護基礎能力</p>	<p>4. 看護倫理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒予防、適切な抑制 ・与薬確認 2) 危機管理 <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急ケア ・ファーストエイド ・緊急時の連絡報告 ・防災手順 1) プライバシーの保護 <ul style="list-style-type: none"> ・診療過程の保護 ・患者情報の守秘 2) 患者権利の保護 <ul style="list-style-type: none"> ・治療選択の援助 ・情報開示 3) 自律の保護 <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定のサポート 	<p>実習 実習</p> <p>演習 講義</p> <p>実習 実習</p> <p>講義</p>
---------------	----------------	--	--